

地域向け広報誌

2018.初秋

第46号

国民健康保険
小松市民病院

ヴェーダ

V E D A (ヴェーダとは
サンスクリット語で
“癒し”を意味します。)

地域の皆さん向けの広報誌

基本理念

わたしたちは、地域の中核病院として
皆さんの健康を守るために、質の高い医
療を提供し共に歩みます。

基本方針

- 患者さんの人権と権利の尊重
- がん医療、救急医療、生活習慣病を中心とした医療の推進
- 地域の医療保健機関、介護福祉施設との連携強化並びに地域完結型医療の確立
- 職員の働きやすい職場づくり

国民健康保険小松市民病院の 認定看護師です



地域の皆さんによりよい看護を提供できるよう、
そして専門的な治療や看護が必要な患者さんに対して
最適な看護は何か、各々の習得した専門知識に基づき判断し
ケアを提供し、看護の質の向上に努めてまいります。

認定看護師紹介

2名の新たな認定看護師が誕生しました。



認知症看護認定看護師 山口 香

超高齢社会となり、認知症の方の入院は増加してきています。認知症の方は、入院によって生活環境が変化することや身体疾患の症状がストレスとなりやすく、認知症症状が悪化したり、混乱したりすることがあります。私は、認知症の方の不安を軽減し、安心して安全に療養することで、元の暮らしの場に戻ることができるよう、その方の視点に立って寄り添い、その人らしさを大切に支援して参ります。また、多職種チームと連携し、認知症の方とご家族をサポートしていきます。



救急看護認定看護師 上杉 如子

昨年の9月から7ヶ月間、救急看護認定看護師教育課程を受講しました。私は多くの学びと経験を得て「看護だからこそその2.5人称」という恩師の言葉に出会い、深い感銘を受けました。「看護師にとって患者さんは家族ではないけれど、他人でもない。」私はその言葉を自分の糧として、患者さんを自分の家族のように捉え、生活者として退院後のことも見据えた看護を提供し、安心して入院生活が過ごせるよう、より良い看護ケアを提供していきます。

市民向けの出前講座を行っています。お気軽にご相談下さい。

感 染 管 理	米多 弘子	感染予防の基本
	新木 京子	ノロウイルス・インフルエンザの予防
がん化学療法看護	松本 真樹	がんを治療する薬について
	城座 圭子	気になることにお答えします!!
緩 和 ケ ア	北野 真実	がん治療と緩和ケア
	木戸口勝巳	
精 神 科	北 由希	心を健康に保つためには？ 家族・同僚がうつ病と言われたら？
	塚谷 大輔	うつ病とは？せん妄とは？ 「死にたい」と言われたら
透 析 看 護	向出 美穂	8人に1人がなる慢性腎臓病ってなあに？
糖 尿 病 看 護	山本恵美子	楽しくガッテン自分の身体 ～糖尿病予防のために～
皮 膚・排 泄 ケ ア	西本 由美	床ずれ予防について
	小町菜亜莉	

問い合わせ：国民健康保険小松市民病院つながるサポートセンター 山本



緩和ケア病棟10周年記念行事

6月23日緩和ケア病棟10周年記念行事が開催され、南加賀の医療関係者の方々約100名が出席されました。前院長の川浦幸光先生が、「全ての人に緩和ケアを」と題して、講演をされ、早期から、緩和ケアをすることの有効性や、将来的にがんだけでなく様々な疾患で適応されるようになってほしいということをお話されました。また、八日市リーダー主任看護師から、緩和ケア10周年の歩みについて紹介があり、これまで入棟された患者さんが800名に上ること、チームでのかかわりの大切さ、今後は病棟内ばかりでなく一般病棟、地域とも連携し、在宅緩和ケアにつながるような支援をしていきたいと発表されました。その後、病棟での患者に寄り添ったかかわりを音楽とともにスライドショーで紹介し、参加者から感動の言葉をいただきました。

ボランティアの中島捷純さんからは10年間の歩みや、普段の活動、最近は聞きかきも行われており、患者さんご家族から感謝の言葉もいただいていることが伝えられました。

また、星空工房の高橋真理子さんから、プラネタリウムの画像とともに患者さんご家族からの感謝のお手紙が読まれ、宇宙の壮大さと生命の輝きのつながりが感じられるひと時を過ごすことができました。

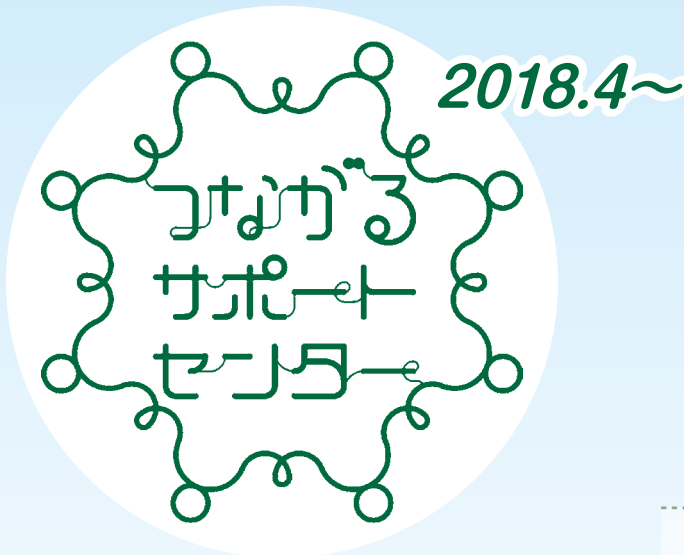




4月より地域医療連携室が

つながるサポートセンター

つなサポへ



受付窓口

患者さん、ご家族を中心に
patient & family oriented, centered



副センター長
後藤 善則



センター長
新多 寿



副センター長
湯野 智香子



かかりつけ医



患者・家族



当院

安心

医療

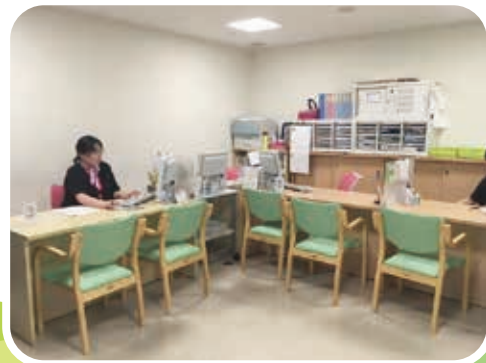
つながるサポートをしよう!

入院支援

退院支援
退院調整

地域連携

医療福祉相談





“地域医療連携室”から “つながるサポートセンター”へ



つながるサポートセンター長

にっ た ひさし
新多 寿

皆さま、こんにちは。

脳神経外科医の新多です。5年前から“地域医療連携室”の室長として勤務してきました。そもそも“地域医療連携室”とは何かと申しますと、患者さんが外来から入院、そして入院から退院へとスムーズに移行できるように地域の病院・クリニック等と当院との医療的な連携をすることを目的に設けられた病院内の組織の一つで、主たる業務は外来・入退院の医療機関間の調整業務でした。

“つながるサポートセンター”はちがいます。患者さんの入院までの家族背景や健康状態、そして退院後の未来の生活までを立体的に把握し、患者さんが安心できる医療をトータルにプロデュース・調整してゆきます。さらには、地域全体の疾病予防や医療レベルの向上のための各種研修や教育も行います。

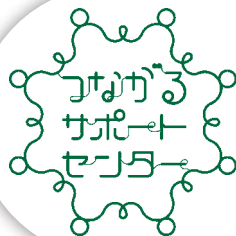
平成30年度からこれまでの“地域医療連携室”から“つながるサポートセンター”という組織へ大変換し、人員もこれまでの2倍ほどにパワーアップしました。

センターには大きく分けて4つの部門があります。①入院支援部門、②退院支援調整部門、③地域連携部門、④福祉相談部門で、それぞれの責任者が各部門間でも協力する体制を取っています。

当院は主に急性期の疾患を対象としていますが、これまでは入院期間という限定的な時間軸で患者さんに医療を提供していました。これからは、患者さんを過去未来の時間軸と社会的存在の中でとらえながら安心できる入院医療をめざし、そのための“つながるサポート”をしてゆきたいと考えております。

私共は市民の皆さまの健康増進のためには何でもお手伝いさせていただきたいと考えております。ご自身が病気でなくても、また当院へ受診歴のない方でも医療や福祉、何にでも無料で相談できる窓口がございます。どうぞご利用ください。また、新たに受付部門の全面的リフォームも行い、明るく和みのある雰囲気になりました。

ぜひ、一度お越しください。



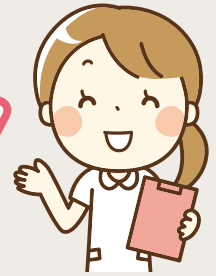
“つながるサポートセンター”のロゴマークの意味

“つながるサポートセンター”には、ひとりの患者さんに対して、たくさんの方が連携してサポートしています。文字の周囲は「手と手をつなぐ人」をぐるりと描いた一筆書きです。ご家族、そして医療関係のスタッフを角のない八角形でつなぎ、患者さんを支える「切れ目のない看護・支援」のイメージを表しています。

([otto!] デザイナー 岡田智子)



はじめます! 助産師外来!



★助産師外来ってなに??

当院の助産師が行う通常の妊婦健康診査です。

助産師外来では、医師の立会いはありませんが医師の診察が必要な場合には医師が診察する体制になっています。

医師・助産師が一体となり安心してお産ができるようサポートさせていただきます。妊娠から出産、産後と継続したケアを受けていただくことで、安心したマタニティライフを過ごしてもらえるように助産師が関わらせていただきます。日頃困っていること、不安に感じていることなどゆったりとした雰囲気の中でお話をしてみませんか?



入院・育児の準備って…?



つわりの時の対処法って…?



食事はどうすればいいの?

★対象となる方

- 妊娠経過が順調な方
- 双子や三つ子でない方
- 医師が対象と判断した方



★日時

田守医師担当の妊婦さん…月曜日・金曜日
岡 医師担当の妊婦さん…月曜日から金曜日
(火曜日を除く)
午前10時から11時30分
(完全予約制 1人30分程度)

★場所

産婦人科外来 外来保健指導室

★料金

通常の妊婦健康診査料と同額
(助成券が使用できます)

★開始時期

今年秋頃の予定



内容など詳しくは産婦人科外来で説明させていただきます。



糖尿病診療のご案内

当院での糖尿病診療は、生活習慣病センターにおいて、外来および入院に至るまで、医師だけでなく、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師などがチームを組み、特に糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフが中心となりそれぞれの専門性を活かしながら行っています。

糖尿病は自覚症状がなく、食事制限や運動療法などの継続が難しい面もありますが、血糖値が高い状態が続けば続くと合併症（網膜症、腎症、神経症、動脈硬化、がん、歯周病、そして認知症など）が進行し、後戻りできなくなってしまいます。患者さんの生活状況を聞きながら、より良い血糖コントロール、合併症の予防を目指してサポートしていきたいと考えています。



生活習慣病センター

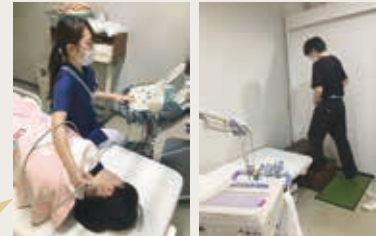
ここでは、内分泌代謝疾患の診療を行っています。主に糖尿病診療において、センター機能に集約化することにより、すべての糖尿病の方への十分な対応、シームレス(切れ目のない)健康管理、更なる病診連携・地域連携を行っています。



糖尿病教育入院

医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、そして臨床検査技師などがチームを組み、入院中支援をします。

そして、受動的に治療や検査を受けるだけでなく、ご自身の身体の状態を学習し、退院後の生活を見据えた自己管理の具体策を見つけていきます。



管理栄養士が実践的な食事療法と一緒に考えていきます。



採血や心電図などの検査を行い、合併症の状態や糖尿病の原因検索も行います。

糖尿病はどんな病気か、自分の体はどんな状態か、パンフレットやDVDを用いて学習します。



退院前には、患者および家族や病院関係者、ときにはかかりつけ医、そして高齢者では介護スタッフの方にも参加をいただき、話し合いを行い、退院後の生活につなげていきます。

特殊な検査

CGMS(持続血糖測定システム)

皮下に1週間センサー(電極)を留置しておくことで、組織間質液中のグルコース濃度を連続測定する血糖測定システムです。

血糖コントロールの評価に有効です。紹介していただければ、検査を実施し、結果(評価)をお返しし、共同診療につなげていきます。



topics
トピックス

平成30年度南加賀地区地域医療連携講演会

平成30年6月21日（木）に平成30年度南加賀地区地域医療連携講演会が行われました。今年度は、ハイズ株式会社代表取締役社長 裊英洙先生をお招きして「医療・介護の人材確保・育成、そして働き方改革」のテーマで開催されました。参加者は、医師、看護師をはじめとする多職種の方々や、教育および事務関係の方々総勢135名の参加をいただきました。

裊先生は、外科医、病理医として勤務後、MBAを取得し2009年に起業され、医業経営コンサルタントの仕事の傍ら、再建先で臨床医として医療現場に携わっています。その経験から人材採用のコツや働き方改革を進めるポイントについてお話をいただきました。その中では、消費者がある商品を知って購入するまでの購買決定プロセスであるAIDMAからネットでの購買行動プロセスであるAISASへと変わっていつてきていることを把握し、ターゲットを絞ったアプローチ法を駆使することや、改革を進めるマネジメントスキルとしての交渉術についてなど具体的な内容がありました。

会場からは、時間外労働、過重労働への働き方改革の周知に関する質問があり、今後も啓発していく必要性を指摘されていました。また、アンケートからは「離職を防ぐ声かけに努めて行きたい」「自分が悩んでいることの解決の糸口が見えた」など具体的な行動につながる意見がみられました。



平成30年度
南加賀地区地域医療連携講演会

2018

6/21 木

時間 19:15~20:15

場所 ホテルサンルート小松

【演題】

医療・介護の人材確保・育成、
そして働き方改革



講師

ハイズ(株) 代表取締役社長

裊英洙 先生

【講師プロフィール】

裊英洙 はい いしゆ
1972年生まれ。東京大学大学院
理学部理学修士。外科医・病理医
として勤務後、MBAを取得し、2009
年に起業。医業経営コンサルタント
の仕事の傍ら、再建先で臨床医
として勤務経験に携わる。

お問い合わせ：国民健康保険 小松市民病院
つながるサポートセンター

市民公開講座の ご案内

今年も市民公開講座の開催を予定しております。

と き：平成30年11月17日(土) 13:00~

と ころ：こまつ芸術劇場うらら

『明日を生きるがん治療』をテーマに開催します。

参加は無料です。たくさんの皆さまのご来場をお待ち
しております。

編・集・後・記

今年は例年になく、大変な年となっていますね。あの大雪のあげくに連日の猛暑が続いていますが、どのような工夫をしておいででしょうか？水分と塩分補給と適切な体温調整をしっかりと行っていきましょう。何はともあれ、秋の気配が待ち遠しいですね。(山本)



国民健康保険 小松市民病院

〒923-8560 石川県小松市向本折町ホ60

TEL(0761)22-7111(代) FAX(0761)21-7155

URL <http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp/>

E-mail cbsomu@city.komatsu.ishikawa.jp